

# 事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	八幡平国立公園協会事業			事業コード	1564
所属コード	0132000	課等名	観光課	係名	
課長名	村山 悦男	担当者名	佐々木 伸司	内線番号	3750
評価分類	<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光地づくりと観光客の誘致	コード	1
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目 広域観光推進事業 (005-01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰越 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	昭和 32 年度	
根拠法令等				

### (2) 事務事業の概要

八幡平国立公園協会構成市町村と民間会員が相互連携し、観光客の誘致を図るために、各種キャンペーン等を実施する。

### (3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

八幡平国立公園の整備促進及び健全なる保全利用を期すため、国・県及び関係市町村に協力することを目的とし、関係団体等との連携協調、施設の保全と自然景観の保護育成、宣伝と啓蒙の強化等の事業を行う。

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

二度の岩手山噴火による風評被害や景気低迷による観光客の減少により、他の広域団体等と連携した積極的な観光客誘致が重要となっている。

東日本大震災により、岩手山及び八幡平周辺への観光客離れが目立ち、徹底した誘致活動が望まれる。

## 2 事務事業の実施状況 (Do)

### (1) 対象（誰が、何が対象か）

市内への観光客及び市内観光事業者

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 市内への観光客入り込み数	万人回	459	465	450	466	450
B 市内観光事業者	社	260	260	260	260	260
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

県内観光関係団体や近隣市町村との連携による誘致宣伝活動の実施。

盛岡・八幡平広域観光圏と連動した観光・物産振興イベントの実施。

首都圏マスコミを対象としたFAMツアーの実施。

いわてDCに向けた首都圏での観光客誘致宣伝活動の実施。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 観光客誘致キャンペーン	回	4	4	4	4	4
B パンフレット作成	部	3,000	0	0	0	3000
C ワーキング会議の回数	回	4	4	4	4	4

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

広域連携を進めることにより観光地としての魅力を高め、相乗効果で引き上げる。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A エリア内観光客入り込み数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	万人回	1,074	1,078	1,150	1,020	1,150
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

## (7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	1,177	1,177	1,177	1,177
	⑤その他( )	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	1,177	1,177	1,177	1,177
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	850	850	850	850
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	3,400	3,400	3,400	3,400
計	トータルコスト A+B	千円	4,577	4,577	4,577	4,577
備考						

## 3 事務事業の評価 (See) . . . . .

### (1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

#### ① 施策体系との整合性

広域的な誘客活動を展開することにより、効果的な事業を実施することができ、効率的な事業の成果が期待できる。

#### ② 市の関与の妥当性

岩手県や広域市町村が協力、連携して実施することができる。

#### ③ 対象の妥当性

テーマ性のある地域を設定し、広域連携に努めることができる。

#### ④ 廃止・休止の影響

盛岡市の拠点性が高いことから、盛岡市の廃止は広域の意味合いがなくなるとともに、他の町村の受ける影響が大きい

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

民間協力体制の協力強化余地がある。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

特定受益者はいない。

(4) 効率性評価

各市町村が単独で行っている事業を共同で行うことにより、経済的な効率を上げることができる。

#### 4 事務事業の改革案（Plan）

(1) 改革改善の方向性

民間企業のメリットの明確化をはっきりさせながら、広域的な観光推進を図る。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

盛岡・八幡平広域観光圏が設立され、事業のすみわけと金銭的負担がおおきくなったことからの統合検討。

八幡平市への事務局の移管。

#### 5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

歴史のある団体であり活動も多く行われてきたが、盛岡・八幡平広域観光圏が設立されたことから、今後広域的観点から事業の精査、改善をはじめ統合も視野に入れて検討が必要である。

